

## 「会堂での癒し」 マタイ 12 : 9 - 21

「イエスはそこを去って、会堂にはいられた。そこに片手のなえた人がいた。そこで、彼らはイエスに質問して、『安息日にいやすことは正しいことでしょうか。』と言った。これはイエスを訴えるためであった。イエスは彼らに言われた。『あなたがたのうち、だれかが一匹の羊を持っていて、もしその羊が安息日に穴に落ちたら、それを引き上げてやらないでしょうか。人間は羊より、はるかに値うちのあるものでしょう。それなら、安息日に良いことをすることは、正しいのです。』それから、イエスはその人に、『手を伸ばしなさい。』と言われた。彼が手を伸ばすと、手は直って、もう一方の手と同じようになった。パリサイ人は出て行って、どのようにしてイエスを滅ぼそうかと相談した。イエスはそれを知って、そこを立ち去られた。すると多くの人がついて来たので、彼らをみないやし、そして、ご自分のことを人々に知らせないようにと、彼らを戒められた。これは、預言者イザヤを通して言われた事が成就するためであった。『これぞ、わたしの選んだわたしのしもべ、わたしの心の喜ぶわたしの愛する者。わたしは彼の上にわたしの霊を置き、彼は異邦人に公義を宣べる。争うこともなく、叫ぶこともせず、大路でその声を聞く者もない。彼はいたんだ葦を折ることもなく、くすぶる燈心を消すこともない、公義を勝利に導くまでは。異邦人は彼の名に望みをかける。』(マタイ 12 : 9 - 21)

**掟と恵み**      パリサイ人は掟に生きていた。律法知識に長けている自負  
人間は高ぶりやすい  
絶えず砕かれていないと、掟が高じて、イエスを殺そうとまでする (14節)

人(他)に知らせるな、と言ったのは(16節)「癒されたんだよ、来てごらん」とお祭り騒ぎをするのをたしなめた。 ← 神自身を知ろうとする信仰ではない

人間は、自分を認めてもらいたい思いがある。